

「親子の出会い」

戸田 秀見

最近悲しいニュースが増えてきたように思います。その中で、親と子の関係が問題で起こってしまった事件もあったと思います。関係がよくなれば悲しい結果にならなかったかもしれません。真宗の宗風（伝統）として、朝夕に勤行を行うという習慣がありますが、親と子が一緒にお勤めをすることによって、もしかしたら関係が深まる一歩になるということがあるのではないのでしょうか。

勤行のことを「おつとめ」といいますが、これは朝夕にお内仏（お仏壇）の前でおまいりをする事です。通常お内仏へおまいりする場合、正信偈や和讃などを唱和します。これはいずれも親鸞聖人のお言葉で、真宗のご本尊である阿弥陀如来の徳をたたえる「うた」であり、それを声に出して唱えることによって、唱えている自分自身が親鸞聖人のお言葉を聞き、同時に阿弥陀如来のみ教えにあわせていただけるということです。

毎日くり返し勤行をすることで、その言葉をとおして仏さまの教えをうけられるのです。自らが唱えながら、自らが聞かせていただくという心でつとめることが大切です。それは、先立って亡くなっていかれた方々が自分の死を通してお内仏の前という聞法の間を準備され、そこに座ることによって「仏さまの声をこの私に対する願いとして聞き届けよ」と呼び掛けておられるのではないかと思います。ですから、お内仏の前でしずかにその願いを聞き、それにこたえて、つとめ行うのが朝夕の勤行です。

忙しい世の中ですが、時間を割いてでも勤行を行う場をもうけ、しずかな気もちでおつとめをしていくと、思いもかけない親子の出会いもひらかれていくかもしれません。